

事業所名 北海道クリスチャンセンター福祉会  
家庭福祉相談室

公表:2023年2月1日 配布数8 回収数8

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8					
	② 職員の配置数は適切であるか	5	3			・親グループにカウンセラーを配置するなど、通常の規定よりも多く配置、ボランティアからの協力を得て個別対応となるよう工夫している。 ・配置基準としては満たしているが、もう少し職員の数があると良いと思う	
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6	1		1	・子どもによっては刺激になる場合もあり、時にパーテーションを立て視覚を制限するようにしている。 ・貸室のため、利用しやすく環境が整っているとは言えない。遊具などを常設できない。 ・スケジュールボードを活用したり、新しい活動の時には視覚的に確認できるものを用意している	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8				・子どもの身長等に合わせ、適切なテーブルや椅子等も配置している。 ・日々の清掃、消毒作業、遊具の点検、ドアの指はさみ防止対策等、怠らずにやっている。 ・掃除、消毒を徹底している。対応年齢の子どもに合わせ、遊具の置きかえを欠かさない	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	8				・療育終了後の振り返りを欠かさず、スタッフ会議や行事のための担当者打ち合わせなど、広く職員が関わって行っている。 ・毎月の会議や行事の反省、企画など全スタッフで話し合っている	
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	1			・評価表に加え、連絡帳や意見箱を設置し、意向を把握するようにしている。親グループカウンセラーを通し、移行の収集に努めている。	
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7	1		1	・自己評価はできているが、ホームページ等への公開はできていない。	・毎年集計結果を事業所ホームページ内で公表している。公表する際は、職員全体に周知する。

善	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	4		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人理事会や、評議委員会で助言をもらったり、行政機関の監査の結果を職員全体で共有している。</li> <li>・第三者の評価は実施できていないが、評議委員や理事会にて、報告、チェックをしてもらうようにしている。</li> <li>・第三者からの評価を受けているかわからない</li> </ul>	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8				<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン研修等を用いて適宜行っている。</li> <li>・定期的に研修案内を回覧し、希望の研修に参加できるようにしている。会議時に、その時々運営に関する研修を行うようにしている</li> </ul>	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	8				<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々のグループ間での共有と記録をもとにアセスメントし作成している。</li> <li>・定期的に保護者のニーズを記入してもらい、支援計画を作成している</li> </ul>	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	8				<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠城寺式乳幼児分析的発達検査や、KIDS乳幼児発達スケールを使用している。必要に応じて、太田のステージ評価も取り入れている。</li> <li>・検査ツールを活用したり、持参する検査結果を活用しながらアセスメントを行っている</li> </ul>	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	8				<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援内容は個別に具体的に設定している。</li> <li>・ガイドラインに沿った項目を入れて計画を作成している。</li> </ul>	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	8				<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内にて支援計画を共有し、必要な支援をしている。</li> <li>・個別課題作成時等に計画に沿って支援を行っている。</li> </ul>	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7	1			<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーが立案し、プログラムの内容は事前にスタッフ内で共有、検討し合っている。</li> <li>・リーダー、サブリーダーを中心に、スタッフ皆で協力して立案している。</li> <li>・スタッフ数名で相談しながら、プログラムの立案を行っている。</li> </ul>	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	8				<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちのプログラムの取り組み具合を見ながら活動プログラムを変更したりと工夫している。</li> <li>・月ごとにプログラムを作成し、固定化しないよう工夫している。</li> <li>・子どもの状況や季節に応じた内容を工夫している。</li> </ul>	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	8				<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日のプログラムの中に個別活動と集団活動をおりこみ、それに必要な支援計画を作成している。</li> </ul>	

	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8				・必ず日案に目を通し、その日の内容や役割について共有している。 ・職員の他、実習生やボランティアで関わる人がいるときは、その人たちを含め全員で打合せと振り返りをしている。(⑳も共通) ・プログラム前と終了後に打合せ、話し合いを実施、支援計画や発達段階をチェックし、子どもの状況を確認している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	8				・終了後に本日の様子や共有した方が良いこと、振り返り、次回に向けての話し合いがされている。 ・スタッフだけではなく、ボランティアにも意見を聞き、その日の振り返りを行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	8				・個別に記録に残している。 ・必ず記録を作成し、支援の目安にしている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	8				・6カ月以内にモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	4	1	2	1	・今年度は今のところ機会がない。 ・グループリーダーや担当スタッフが参加している。	参加した後は、スタッフ会議等で全職員に周知しているが、回数が少ないため、忘れていた職員もいた。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	8				・必要に応じて、電話連絡や訪問等適宜対応している。 ・区の保健センターの保健師、心理士と連携を取っている。 ・定期的に事業所の紹介等を行い、保健センターと連携し、支援の必要なこの情報共有を行っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか						・持病がある場合は、保護者が医師の指示の下で対応している。現在医療機関と直接連携はしていない。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか						
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7	1			・保育所等訪問支援を通して、年3回以上の訪問を実施、先生たちと連携し支援を行っている。 ・利用児が幼稚園などに入園する際に、保護者の了承を得てから総合所見を園と共有する等、情報共有を行っている。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	8			1	・保護者の希望を確認したうえで、小学校との引継ぎを行っている。 ・保護者のニーズに合わせて、学校への引継ぎを行うようにしている。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7	1			・オンライン研修を活用している。 ・必要に応じて他事業所と連携している(現状の共有、支援方法等)。 ・研修会に参加したり、他事業所の支援計画を確認し、支援情報を共有するようにしている。	

保護者への説明責任	⑳ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	2	2		・同法人内の保育園との交流の機会をつくるようにしている。	親への配慮や、他園に通っている利用児が多くなっているため、交流の必要性や実施については丁寧に検討していく。	
	㉑ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	0	7	1		・会議への参加の機会はないが、職員の中に民生委員、補導員がいる為地域での子育て支援には関わっている。 ・時間が合わず、参加が難しい。 ・日常業務を大切にすると、なかなか参加が難しい。		
	㉒ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8					・毎回療育前に保護者から子どもの様子を聞き、帰りにはその日の様子を伝えている。 ・支援計画については必ず面談での説明を行っている。 ・親グループの中で情報共有している。 ・面談、連絡帳、電話等を活用し、日墓の困り感、課題等を細かく伝え合えるようにしている。	
	㉓ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	5	2	1			・講師を招き、就学についてのお話を聞く会を開いたり、先輩お母さんを招いて経験を話していただいたり、教員経験者からお話を聞く会を開いている。 ・ペアレントトレーニングは行っていないが、親同士の話し合いから、子育てのヒントを得られるように、親グループを行っている。 ・プログラムとしては行っていないが、親グループや面談を通してのやり取りが保護者の気づきにつながることもある。 ・親グループの毎回の実施。今困っていること悩んでいることを話し合える場を提供し、助言を行っている。	今行っている取り組みの中で、どのようなものが、家族支援プログラムに該当するのか職員間で再確認する。
	㉔ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	8					・契約時に行っている。保護者から質問があった時にはその都度説明をしている。	
㉕ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	8					・作成後、リーダーが必ず保護者と面接し共有し、同意を得ている。 ・個人面談を行い、支援内容を説明するとともに、現在の子どもの状況、課題の共通理解を図っている。		
㉖ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8					・保育所等訪問の際や、行事前等保護者が不安に感じる時期に声掛けをし、リーダーやカウンセラーが話を聞いている。 ・親グループ、面談、電話相談等、保護者の相談を受ける体制を整えている。 ・一人一人の保護者の状況に合わせて対応している。		
㉗ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	7			1		・親グループの話し合いの場があり、卒業後も同窓会が年1回開催されている。 ・父母の会はないが、保護者同窓会がある。親グループは、保護者同士が情報交換や悩みの共感をする場になっている。 ・家族の集い、人形劇など父母が参加できる行事を実施している。		

一 等	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8				・相談、要望があった時には迅速に対応している。 ・メールや電話、連絡帳など、申し入れに応じてその都度対応している。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	8				・毎月グループ通信を発行している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	8				・記録時は、イニシャルを使う等、気を付けている。 ・同意書を取り、十分注意している。	
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8				・分かりやすく簡潔に伝えられるよう、一人一人に工夫している。 ・外国籍の方へ、英文での文章作成、写真を活用した手紙の作成。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	1	6		・コロナ禍で、人を集める行事ができていない。	十分な感染対策ができる状況になったときに再開を検討する。
非 常 時 等 の 対 応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	8				・発生を想定した訓練を実施している。非常時に対応できるよう、防災用リュックもグループ前に備えている。 ・定期的実施している。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	8				・定期的実施している。 ・訓練後、全スタッフで改善点を話し合っている。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	8				・持病があるお子さんについては、常に状況把握に努め、注意深く対応している。 ・文章に手提出してもらうよう、確認票を配布している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	8				・アレルギーのある子が参加するときには事前に周知している。 ・受付、契約時に必ずアレルギーについて聞き取っている。提供するおやつは、必ず保護者にチェックしてもらっている。 ・対象児の保護者を通して医師の指示を確認し対応している。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	8				・事業所内で、ヒヤリハットをまとめたファイルがあり、事案が生じた際に回覧し、周知している。 ・事例発生時は、職員間で共有し、対応策を会議で確認している。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	8				・オンライン研修を行った。 ・全体研修を行った。 ・虐待防止委員会を設置し、話し合いをしている。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	6	1	1		・スタッフ会議等で十分話し合いわれているとは言えない。 ・虐待防止の研修の中で、身体拘束について学んでいるが、現在身体拘束が必要と思われる子供はいない。 ・研修を実施している。 ・道路等への飛び出し、高い所からの手放し等、危険な行為が予想される場合、又他害の激しい時は、身体拘束する場合がある。	今後も適宜、研修を行いながら職員間で話し合っていく。

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。